

2008年度 事業報告

2008年6月24日から2008年12月31日まで

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

はじめに

法人設立初年度は、基盤整備に重点を置いた。シマフクロウの生息状況調査を行い、新たな繁殖地や繁殖に必要な巣箱かけの候補地を探すなど、今後の保護戦略の基礎になる活動を行った。これと並行して、給餌池に魚を放す活動を開始した。

シマフクロウの窮状を広く多くの人に知ってもらい、保護・保全・支援活動を推進するために、ホームページ、入会パンフレット等の作成を行い、会員や寄付を募集するPR活動に取り組んだ。また、シマフクロウの現状を理解し支援する人づくりのために、講演会の開催、子供を対象とした観察会の実施、生息環境を訪ねるエコツアーや人材育成セミナーを実施した。

<各事業の結果>

I 保護・保全・支援事業

1. 給餌

1) 給餌事業

釧路管内の給餌池にて、11月に1回実施した。おさか寄付を用いたヤマメ 50kgを購入し、シマフクロウのために池へ放流した。その後、ほぼ毎日シマフクロウが給餌池に飛来し、ヤマメを食べていることを確認した。

2) 給餌のための募金活動

6月に財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部と給餌池の管理委託について話し合いを行った。

「おさかな寄付」の募集をホームページ、入会パンフレット等で呼びかけた。

2. 巣箱かけ

1) 巣箱かけ事業

8月と10月に2回、巣箱かけ候補地の下見を行った。巣箱をかける木の選定や周辺河川の魚資源状況を確認した。12月に2回、繁殖期前の巣箱の点検と巣材足し作業を3箇所で行った。

2) 巣箱かけ事業のための募金活動

「巣箱かけ寄付」の募集をホームページ、入会パンフレット等で呼びかけた。

3. 調査

4月から12月まで釧路管内で新たに繁殖が確認されたペアの経過観察を中心に延べ105日間、新たな調査地1、繁殖確認済みの3地域の調査と経過観察を実施した。

各地別報告

- (1) これまで生息の情報がなく、調査が行われていなかった地域で、6月から8月までは各月2回、9月は4回、10月は2回、11月は3回の計15回の生息確認調査を行った。その結果、ペアの鳴き交わりを確認する事が出来た。既存の近くで繁殖したペアと重複していないことを確認し、新たなる繁殖が認められた。
- (2) 繁殖が確認されている地域において、巣立ち後の若鳥や成鳥の観察等を行い、生息環境の変化や人的被害状況等を調べた。必要に応じ、悪影響を及ぼす行為に注意を促した。
 - ① 根室管内の1か所において、8月から11月まで各月1回、計4回の観察を行った。
 - ② 根室管内の1か所において、7月に3回、8月に2回、11月に1回、計6回の観察を行った。
 - ③ 釧路管内の1か所において、4月に5回、5月に20回、6月に18回、7月に5回、8月に5回、9月に5回、10月に7回、11月に5回、12月に10回、計80回の観察を行った。

II 人材育成事業

1. セミナー

保護の担い手を発掘し育成するために、シマフクロウ保護調査員養成セミナーを8月に1回行い、2名の参加者があった。野外でシマフクロウの痕跡を調べ、生息可能な環境を知るなどの調査員に必要な体験を行った。北海道新聞、NHK等でセミナーの様子が広報された。

2. 講演会

シマフクロウに関心を持ってもらい、支援や協力が必要であることを理解してもらうために、浜中町にて11月に講演会を行い19名の参加があった。

III 環境教育事業

1. 観察会

11月に、霧多布湿原センターとの共催で、子供を対象に「シマフクロウ勉強会」を実施し、20名の参加者があった。子供たちとともに湿原や森を歩き、シマフクロウの暮らす環境や生活について考えた。

IV エコツアーリズム事業

ツアーを10月と11月に各1回、計2回実施し、2名の参加者があった。このツアーはシマフクロウを見ることではなく、生息地を訪れることが目的である。保護・調査に長年携わってきた調査員とともにシマフクロウの生活の場を実際に体験した。

V PR事業

シマフクロウの窮状を広く多くの人に知らせ、会の支援者を増やし自主財源を確保し、保護・保全・支援・普及活動を推進するために以下のPR事業を行った。

1) ホームページによるPR

8月から公開し、活動報告やブログ等を更新し、入会や各種問い合わせ等に随時対応した。

2) 入会パンフレット等印刷物によるPR

入会パンフレット5000部、会員証1000部、記念シール1000部、会報創刊号3,500部を作成し、配布した。

3) その他のPR活動

① イベントによるPR

9月に実施された浜中町内のイベントにおいて、パンフレット配布・募金活動を行った。

② 写真貸出

シマフクロウの保護普及のために写真貸出を行った。洞爺湖サミットでの展示を含め5件行った。

③ マスメディアによるPR

NHK、雑誌等から事業活動や団体紹介の取材を受け、対応した。

④ その他のPR

活動助成の支援をいただいている株式会社ラッシュジャパンから、ロゴ特別仕様団体に選ばれ、法人ロゴマークと団体紹介入りの商品が全国で販売された。